

ヘブライ人への手紙 3章 1節から 6節 イエスは、はるかにすぐれたモーセ

聖書をお持ちの方は、ヘブライ人への手紙 3章 1節から 6節をお開きください。本日のこの箇所を読むにあたり、まずこの手紙が誰に宛てて書かれたのかを思い出すことが大切です。この手紙の受け取り手は、おそらくローマに住んでいたユダヤ人クリスチャンでした。「ヘブライ人への手紙」と呼ばれるのは、その受け取り手がヘブライ人、すなわちユダヤ人であったからです。ユダヤ人にとっては、文化も背景も、そのすべてが信仰と分かちがたく結びついていました。ある意味で、それは日本人であることにも似ています。日本人にとっても、信じているかどうかに関わらず、神道や仏教が文化の中に息づいています。何世紀にもわたって、日本の地域社会の営みは地元の神社から生まれた祭りを中心に形づくられてきましたし、七五三のような人生の節目の儀式も同様です。ユダヤ人の生活もまた、その宗教的営みを中心として成り立っていました。ここで誤解しないでいただきたいのは、私は、聖書の真の神を他の宗教と同一視しているわけではないという点です。むしろ、ここで言いたいのは、メシアであるイエスを拒むという点において、ユダヤ教もまた真理ではないということです。しかしながら、当時、たとえクリスチャンとなっても、ユダヤ人としての信仰に立ち返ろうとする誘惑があったことも事実です。すなわち、それはモーセへ、そしてモーセの律法へと立ち返ろうとする誘惑です。ヘブライ人への手紙の著者は、この箇所において、モーセに立ち返ることは、イエスを通して与えられている神への道を拒むことにほかならないと明確に語っています。イエスこそがモーセにまさるお方だからです。そして、これから見る御言葉が示すように、このメッセージは当時の人々だけに向けられたものではなく、今を生きる私たちにも語りかけられているのです。

それでは、その理由を、このヘブライ人への手紙 3章の最初の 6節を読みながら見ていきましょう。ですから、天の召しにあずかっている聖なる兄弟たち。私たちが告白する、使徒であり大祭司であるイエスのことを考えなさい。2 モーセが神の家全体の中で忠実であったのと同様に、イエスはご自分を立てた方に対して忠実でした。3 家よりも、家を建てる人が大いなる榮譽を持つと同じように、イエスはモーセよりも大いなる栄光を受けるにふさわしいとされました。4 家はそれぞれだれかが建てるのですが、すべてのものを造られたのは神です。5 モーセは、後に語られることを証しするために、神の家全体の中でもべとして忠実でした。6 しかしキリストは、御子として神の家を治めることに忠実でした。そして、私たちが神の家です。もし確信と、希望による誇りを持ち続けさえすれば、そうなのです。この議論へと導いているのは、「ですから」という言葉であり、これらの節がそれ以前の内容と結びついていることを示しています。第2章の終わりでは、イエスは人となられたゆえに、十字架において私たちの身代わりとなることのできる、完全な人なる大祭司であると語られていました。そしてそこから、イエスが私たちの大祭司であるということは、私たちがその召しにあずかる者とされていること、すなわち永遠の栄光への召しにあずかっていることへとつながっていきます。この、イエスの召しにあずかるという点は、モーセが経験したことと似ている点もありますが、同時に異なる点もあります。そこで著者はまず、イエスとモーセの類似点を示し、その上で、イエスがモーセにまさっている点を明らかにしていきます。私たちはそれを 1節に見ることができます。そこでは、「私たちが告白する、使徒であり大祭司であるイエスのことを考えなさい」と語られ、続く 2節では、「モーセが神の家全体の中で忠実であったのと同様に、イエスはご自分を立てた方に対して忠実でした」と述べられています。このイエスとモーセの比較は、「神の家」という考えを中心に展開されていきます。この文脈で「神の家」と言われているのは、神の民のことです。モーセは、神の民を約束の地の手前まで導き、そこに入る備えをさせた、従順で忠実な僕でした。しかし彼は、神の家、すなわちその民が約束の地に完全に導き入れられる前に、世を去ったのです。イエスもまた、ご自身の召しに忠実でした。しかし、その死こそが、神の民のための働きの完全な成就となりました。そしてイエスは死にとどまることなく、よみがえられることによって、その働きが成し遂げられたことを示し、罪の罰である死そのものに打ち勝たれたのです。モーセが忠実に果たした働きは、一つの民族を奴隷状態から解放することでした。そしてイエスの働きもまた、人々を解放するという点では共通しています。しかしイエスがもたらす解放は、すべての人間を捕らえている罪からの解放です。つまり、モーセの忠実さは一つの民に限られていましたが、イエス

の忠実さは、すべての人に及ぶものです。しかし、ここに両者の忠実さを結びつける点があります。それは、「**ご自分を立てた方に対して忠実でした**」という言葉にあります。「**ご自分を立てた方**」とは父なる神のことです。この神こそ、出エジプト記3章で燃える柴の中からモーセに語りかけ、エジプトの束縛からイスラエルの民を導き出すよう召されたお方でもあります。つまり、モーセもイエスも、神の民に救いをもたらすという父なる神の召しに対して、忠実であったのです。

この箇所の主なポイントは、イエスがモーセよりも優れた存在であり、モーセとは異なる方であるということです。したがって、私たちはモーセを救い主として仰ぐのではなく、イエスに目を向けるべきです。しかし著者は同時に、イエスとモーセの両者が神のご計画に従うことにおいて同じように忠実であったことも強調しています。この点は、私たちが今日キリストに忠実に歩み続けるための励ましとなります。なぜなら、私たちもまた、父なる神によって与えられた使命のために召されているからです。この召しについては、ピリピ人への手紙3章14節に見ることができます。**14 キリスト・イエスにあって神が上に召してくださるといふ、その賞をいただくために、目標を目指して走っているのです。**私たちは、キリストを忠実に追い求める中で、キリストにあって与えられている天の召しに応えて生きています。では、あなたの人生の第一の目標は何でしょうか。学業を追い求めることでしょうか。それとも昇進やより良い仕事を目指すことでしょうか。あるいは、家族や自分の立場に対する周囲の評価をえることでしょうか。あなたは何のために朝起きているのでしょうか。本来それは、私たちがすべてにおいてキリスト・イエスに栄光を帰すように導く、天の召しであるべきです。モーセが神の召しに忠実であり、イエスが父なる神のご計画に忠実であられたように、私たちもまた、自分に委ねられているすべてのことにおいて忠実であろうとすることによって、キリストに栄光を帰すべきなのです。

私たちの人生における目標は、イエスに栄光を帰すことであるべきです。しかし同時に、神からの召しに忠実に生きる者は、神に従う人々の間で誉れを受けることもあります。ですからモーセは、当時のユダヤの人々からも、そして今日においてもユダヤ人やクリスチャンから尊敬されています。同じように私たちも、イギリスのバプテスト派の牧師であるチャールズ・スポルジョンや、伝道者ビリー・グラハム、さらにはあまり知られてはいませんが、同じようにキリストに忠実であった明治時代の牧師、植村正久のような人々を尊敬します。また、女性で言えば、中国への宣教師であったロッチェ・ムーンや、宣教の召しに従う中で夫を失った後も忠実であり続けたエリザベス・エリオット、あるいはその作品を通して福音の栄光を指し示した日本の作家・三浦綾子のような人々を挙げることもできるでしょう。このように、私たちはクリスチャンとしての歩みにおいて忠実に生きた人々を尊敬するのです。しかし、その誉れは、すべての誉れを受けるにふさわしいお方であるイエスに帰されるべき誉れとは、まったく性質の異なるものです。ですからこの箇所から、**イエスとモーセは似ている点もあるものの、その誉れの性質においては、はっきりと異なっていることがわかります。**もう一度、3節と4節を見てみましょう。**3 家よりも、家を建てる人が大いなる栄誉を持つのと同じように、イエスはモーセよりも大いなる栄光を受けるにふさわしいとされました。4 家はそれぞれだれかが建てるのですが、すべてのものを造られたのは神です。**ここでも家のたとえが用いられていますが、少し変化しています。ここではモーセは家を建てる者ではなく、むしろ建てられる家そのものとして描かれています。皆さんの多くは、建築家フランク・ロイド・ライトをご存じでしょう。日本にも、彼が設計した建物がいくつか現存しています。もちろん、そのような建物は、その様式を好む人にとっては印象的なものです。しかし、誉れを受けるのは建物そのものではなく、それを設計した人です。同じように、モーセは神の家において忠実でしたが、その家を建て、設計したのは究極的にはイエスです。なぜなら、イエスは神であり、「**すべてのものを造られたのは神**」だからです。このように、モーセは神から与えられた使命においてイエスと同じように忠実でしたが、その忠実さは自分の名誉のためではなく、神の栄光のためのものでした。モーセがどのようにその務めを果たしていたかを考えてみてください。出エジプト記を見ると、モーセは神のもとに出て行き、イスラエルの民を導くための指示を受けていました。そして、神との対話の場から出てきたとき、彼の

顔には神の栄光が現れていたのです。出エジプト記 34 章 34 節から 35 節にはこうあります。34 モーセが主と語るために主の前に行くとき、彼はその覆いを外に出て来るまで外していた。外に出て来ると、命じられたことをイスラエルの子らに告げた。35 イスラエルの子らがモーセの顔を見ると、モーセの顔の肌は輝きを放っていた。モーセは、主と語るために入って行くまで、自分の顔に再び覆いを掛けるのを常としていた。このように、モーセは忠実であり、その忠実さによって神に誉れと栄光を帰しました。しかし、モーセと異なり、イエスはご自身が栄光を受けるにふさわしいお方です。イエスの忠実さは父なる神に栄光をもたらしましたが、イエスは神ご自身であるゆえに、その救いの栄光を父と等しく分かち合っておられます。この救いは、イエスが神の救いのご計画に完全に従われ、その死に至られたことによって実現したのです。モーセはイエスのように人を救うことはできませんでしたが、その従順は神が紡いでおられた贖いの物語、すなわち神が建てておられる家の土台となりました。あなたもまた、自分の罪を悔い改め、イエス・キリストに立ち返り、主であり救い主として信頼するなら、この贖いの物語の一部となることのできるのです。

イエスとモーセは同じように忠実でありながら、受ける誉れが異なるのは、家におけるそれぞれの役割が異なるからです。このことは、この箇所締めくくりである 5 節と 6 節に見ることができます。5 モーセは、後に語られることを証しするために、神の家全体の中でもべとして忠実でした。6 しかしキリストは、御子として神の家を治めることに忠実でした。そして、私たちが神の家です。もし確信と、希望による誇りを持ち続けるなら、そうなのです。王の家には、しもべもいれば子も住んでいます。しかし子は、その家において（家の主人と）特別な関係を持ち、しもべにはない権利をもってそこにいます。モーセは、神の家においてそのような立場にありました。彼は一つの民を導きましたが、その民からやがて、飼葉おけに生まれる幼子、イエスが来られることとなります。モーセをはじめ、イスラエルを導いたすべての士師や王、そして彼らを偶像礼拝から立ち返らせ、神に従うよう呼びかけたすべての預言者たちは、このことを証ししていたのです。すなわち、イエスと、その方がもたらす救いこそが、「後に語られること」であったのです。モーセの働きは、やがて起こる本当の出来事に対する脇役であり、その前触れでもありました。しかし、ここでイエスに目を向けると、その役割はまったく異なります。イエスはしもべとしてではなく、御子として仕えられました。御子は家とそのすべての富を受け継ぎますが、しもべはそれを管理するにすぎません。御子はその家も、土地も、そこに属するすべてのものを所有しているのです。ですから、栄光はすべて御子に帰されます。しもべがその家を整え、忠実に役割を果たしたとしても、その栄光は最終的には御子に帰るのです。

こうしてイエスとモーセを比べてみると、イエスがモーセよりも優れていることは明らかです。しかし私たちはなお、このことが自分たちにどのように関わるのかを問わずにはいられません。6 節の最後の言葉は、この真理を私たちにどのように適用すべきかを示しています。そして、私たちが神の家です。もし確信と、希望による誇りを持ち続けるなら、そうなのです。私たちの役割は、キリストを礎として神が建てておられる家となることです。その家は、私たちがキリストのからだ、すなわち教会の一員として生きる中で、現実のものとなっていきます。このことは、使徒パウロが、私たち一人ひとりが教会の一部であることを同じような言葉で語っている箇所にも見ることができます。エペソ人への手紙 2 章 21 節から 22 節にはこうあります。21 このキリストにあって、建物の全体が組み合わされて成長し、主にある聖なる宮となります。22 あなたがたも、このキリストにあって、ともに築き上げられ、御霊によって神の御住まいとなるのです。1 世紀のユダヤ人信者たちは、自分たちの文化や宗教的背景によって、イエスから引き離され、モーセへと引き戻されそうになっていました。彼らはこの言葉を読みながら、「家のしもべであるモーセに戻ってはならない。イエスこそ、より優れたモーセであり、その家の主人なのだ」と語りかけられていたのです。おそらく今日の私たちの中で、モーセに戻ろうと誘惑される人はいないでしょう。しかし私たちもまた、文化的な圧力や家族の影響によって、イエスから離れてしまう誘惑を受けることがあります。モーセ自身が人々を家の主人であるイエスへと指し示していたように、私たちもまた、イエスに目を注ぎ続け、そこから目をそらさないようにする必要があ

ります。ユダヤ人、すなわちこれらのヘブル人の信者たちにとっての誘惑は、イエスではなくモーセを誇ることでした。私たちにとってはどうでしょうか。家族やお金、仕事、あるいは社会の中で与えられる名誉を誇りとしたくなることがあります。そうしたものは、私たちの人生の拠り所となり、この人生を歩んでいけるという自信を与えてくれるかのように見えます。しかし、それらは決して本当の希望や、将来に対する確かな確信を与えてくれるものではありません。本当の希望はただ、イエスにおいてのみ見いだされるのです。

ですから私たちは、イエスのもとへと立ち返るように招かれています。もう一度1節を見ていきましょう。ですから、天の召しにあずかっている聖なる兄弟たち。私たちが告白する、使徒であり大祭司であるイエスのことを考えなさい。私たちはイエス・キリストによって聖なるものとされました。イエスは、父なる神から遣わされた使徒として福音を宣べ伝えただけでなく、大祭司としてご自身をいけにえとしてささげることによって、私たちの贖いを成し遂げてくださいました。ですから、私たちは絶えずイエスに目を注ぎ続けなければならないのです。この世において確信や希望を見いだそうとして、モーセや他のものに目を向けてはならないのです。私たちは栄光の対象ではありませんし、この世のどんな人もそうではありません。しかし、私たちは神が建てておられる家とされています。そして教会である私たちは、この世において神の栄光が現される場とされているのです。では、キリストが建てておられるその家として、私たちの役割は何でしょうか。それは、神が私たちに働きかけ、形づくり、変えてくださることを受け入れることです。家を建てるために使われるレンガや木材が、どのように使われたいかを職人に指図することはありません。それらはただ、自分が造られた目的に従って用いられます。それと同じように、これが神の家における私たちの役割なのです。私たちはキリストのからだの一部として、神が私たちの内に、また私たちを通して働かれることを喜んで受け入れ、その栄光のために神の目的が成し遂げられることを願うのです。それがモーセの役割であり、また私たちの役割でもあります。なぜなら、「**私たちは神の家**」だからです。祈りしましょう。

Hebrews 3:1-6 Jesus is the Better Moses イエスは、はるかにすぐれたモーセ

Turn in your Bibles to Hebrews 3:1-6. As we look at this passage today, its important to remember who originally received this letter from whoever wrote it. The original recipients were Jewish Christians likely living in Rome, that's why the name Hebrews, because Hebrews, or Jewish people, were those who received it. If you are Jewish, everything about your culture and background is wrapped up in your religion. It was in some ways like being Japanese. There is often an assumption that Japanese people are connected to Shinto and Buddhism culturally, even if they are not personally practicing or believing. Just as community life in Japan for centuries has centered around celebrations (matsuri) that came into existence through the local Shinto shrines, and ceremonies for life occasions like SHICHI GO SAN... Jewish life centered around their religious life. Now I'm not equating the true God of the Bible with false religion, but the Jewish faith with a rejection of the Messiah, Jesus is false as well. But if you are Jewish at that time, even as a Christian, there would be a strong pull back to religious identity of being Jewish. In other words, a return to Moses and the Mosaic law. **The writer of Hebrews will make clear in this passage that to return to Moses would be to reject the access to God we have through Jesus, who is the better Moses.** As we will see in these verses today that message is still for us today.

Let's see why this is by reading these 6 verses. **Therefore, holy brothers,^[a] you who share in a heavenly calling, consider Jesus, the apostle and high priest of our confession,² who was faithful to him who appointed him, just as Moses also was faithful in all God's^[b] house.³ For Jesus has been counted worthy of more glory than Moses—as much more glory as the builder of a house has more honor than the house itself.⁴ (For every house is built by someone, but the builder of all things is God.)⁵ Now Moses was faithful in all God's house as a servant, to testify to the things that were to be spoken later,⁶ but Christ is faithful over God's house as a son. And we are his house, if indeed we hold fast our confidence and our boasting in our hope.^[c]** What leads into this discussion, is the word “therefore” connecting these verses to what came before. Chapter 2 ends on a note that Jesus is the perfect human high priest who can be our substitute on the cross because of his humanity. This then leads into how Jesus being our high priest means we share in his calling, which is a calling to eternal glory. This part we have in Jesus's calling is similar to what Moses experienced, but different as well. So, **the writer begins with first showing that Jesus and Moses are similar, before pointing out the difference that makes Jesus better.** We see this in verse 1, starting where we are told to **consider Jesus, the apostle and high priest of our confession,² who was faithful to him who appointed him, just as Moses also was faithful in all God's^[b] house.** This comparison of Jesus and Moses is going to revolve around this idea of God's house. The way that God's house is being used in this context is that God's house is a way of saying God's people. Moses was the obedient and faithful servant who led God's people to the edge of the promised land and prepared them to go inside. But he died before God's house, his people were fully delivered into the promised land. Jesus was also faithful to His call, but his death was actually his fully completed work on behalf of God's people. And rather than staying dead, he signaled the completion of that work by rising from the dead, and conquering the penalty of sin, death itself. Moses's work that he was faithful to was the deliverance of a national people from slavery, and Jesus's work is the deliverance of a people as well. But the deliverance that Jesus provides is the deliverance from sin that entraps every single human. So Moses's faithfulness only affected one group of people, but Jesus's faithfulness is available to

the entire human race. But here is the connection with both displays of faithfulness. It is in the phrase “...who was faithful to him who appointed him...” The “him who appointed him...” was God the Father. This was also who spoke to Moses out of a burning bush in Exodus 3 and called him lead the people of Israel out of bondage in Egypt. So, both Moses and Jesus were faithful to God the Father’s call to offer deliverance to God’s people.

Now, the primary point of this passage is that Jesus is the better Moses, so he’s different than Moses. And we should not be looking to Moses as our deliverer but to Jesus. But for the writer to point out that they were showing the same faithfulness in their commitment to following God’s plan, gives us hope for our faithfulness to Christ today. You see we too have been called by God the Father to a specific purpose. We see this calling on our lives in [Philippians 3:14](#) **14 I press on toward the goal for the prize of the upward call of God in Christ Jesus.**

We share in that heavenly calling by faithfully pursuing Christ and his Heavenly or upward calling we have when we are in Christ Jesus. What is your primary goal in life? Is it pursuing an education? Is it pursuing a promotion or a better job? Is it pursuing honor in society based on how your family is perceived or your position is respected? What is it that motivates you to get out of bed in the morning? It should be that heavenly calling that is driving us to bring glory to Christ Jesus in everything that we do. Just as Moses was faithful to God’s call and Jesus was faithful to God the Father’s plan, we bring honor to Christ by seeking to be faithful in all that he has given us to do.

Our goal should be to bring honor to Jesus. But there is no doubt that for those who are faithful to God in their calling, there is honor in the eyes of others who follow God. So Moses rightfully is honored by the Jewish people then and even now by Jews and Christians. We also rightfully honor men like the British Baptist pastor Charles Spurgeon, the great evangelist Billy Graham, and less well known but just as faithful, Meiji era pastor, Uemura Masahisa (植村正久). And we could name women like the American missionary to China, Lottie Moon, or Elizabeth Elliott who remained faithful even after losing her husband while following their call to missions, or the great Japanese novelist Ayako Miura, whose work points readers to the glory of the gospel. So, we rightfully honor faithfulness in the Christian life. But that honor is very different from the honor due to Jesus, as the one worthy of all honor. **So we see in this passage that while Jesus and Moses are similar they are different in the honor they receive.** Look again at verses 3-4. **³ For Jesus has been counted worthy of more glory than Moses—as much more glory as the builder of a house has more honor than the house itself. ⁴ (For every house is built by someone, but the builder of all things is God.)** The illustration of the house is still being used, but now it changes a little bit. Now Moses is not the builder of the house but is himself the house that is being built. Most of you are probably familiar with the architect, Frank Lloyd Wright. Even in Japan, there are a few surviving houses that he designed. Now, of course those houses if you like that style are impressive, but its not the building that is honored, but the man who designed the building. So, while Moses was faithful in God’s house, it was ultimately Jesus who was the builder and designer of that house, because he is God. And as God he is the ultimate creator, the “**builder of all things**”! So, while Moses was faithful to his God called purpose in the same way as Jesus himself, Moses was not faithful to bring honor to his own name but to God’s. Think about how Moses conducted his ministry. If you remember back to Exodus, Moses went before God and God spoke to him and told him

what to do to lead the people of Israel. But when Moses walked out of those meetings, God's glory was evident even in his face. [Exodus 34:34-35](#) says, [Whenever Moses went in before the Lord to speak with him, he would remove the veil, until he came out. And when he came out and told the people of Israel what he was commanded, 35 the people of Israel would see the face of Moses, that the skin of Moses' face was shining. And Moses would put the veil over his face again, until he went in to speak with him.](#) So Moses was faithful, and that faithfulness gave the honor and glory to the one who deserved it – God. Jesus was the one worthy of glory. And his faithfulness gave glory to God the Father, but as God himself, he shares equally in the glory of that salvation. It was his death, his faithful obedience to God's plan of salvation that makes that salvation possible. Moses could not save anyone in the way that Jesus did, but his obedience did provide the foundation for the redemption story that God was writing, this house that God was building. You too can be a part of that redemption story when you repent of your sin and turn to Jesus Christ and trust him as your Lord and Savior.

That different honor that Jesus and Moses have while sharing a similar faithfulness comes from the different roles within the house. This is what we see in verses 5-6 as this section comes to a close. [5 Now Moses was faithful in all God's house as a servant, to testify to the things that were to be spoken later, 6 but Christ is faithful over God's house as a son.](#) Both a servant and a son live in a king's house. But the son has a special relationship in that house and a right to be there that the servant does not. This is what Moses was to God's house. He led a nation of people from whom eventually would come a baby, born in a manger, named Jesus. That was what Moses and every judge, then king, who led Israel and every prophet who called them back from idolatry to following God were testifying to. Jesus and the salvation he would bring was the ["things that were to be spoken later..."](#) So, Moses's work was in a support role and picture of the main event to come. But then we come to Jesus. His role was to serve in a different way, not as a servant, but as the son. The Son inherits the house and the wealth, while the servant only manages it. The Son owns the house, the car, the land and everything associated with that house, so the glory goes to him, although the servant has faithfully done his part to make that house look nice.

When we reach the end of that comparison between Jesus and Moses, it is clear that Jesus is better than Moses. But we are still left asking how this knowledge applies to us. The final statement of verse 6 leads us to an application of this knowledge. [And we are his house, if indeed we hold fast our confidence and our boasting in our hope.](#) Our role is to be the house that God is building with Christ as the cornerstone. That house is lived out in a very real way as we are part of the Body of Christ, the church. We see this when the apostle Paul uses similar language to describe each of us being part of the church. [Ephesians 2:21-22](#) says, [21 in whom the whole structure, being joined together, grows into a holy temple in the Lord. 22 In him you also are being built together into a dwelling place for God by the Spirit.](#) The first century Jewish believers were being pulled by their culture and their religious background away from Jesus and back to Moses. To them, they were reading these words and hearing, don't go back to Moses, the servant of the house, because Jesus is the better Moses, the owner of the house. I'm pretty sure that none of us today are tempted to go back to Moses, but we can be tempted to walk away from Jesus for cultural or family reasons. Moses himself was pointing the people to Jesus, the builder of the house, and today, we need to fix our eyes on Jesus as well and stay focused on

him. The temptation for the Jews, these Hebrew believers, was to boast in Moses rather than Jesus. For us, we may want to boast in our family, our money, our job, the honor we are given in society. These things can even become the security we have in our life, things that can give us confidence that we can get through this life. But those things can never give us real hope, real confidence for the future. That is only found in Jesus.

So, we are being called back to Jesus, back to verse 1. **Therefore, holy brothers, you who share in a heavenly calling, consider Jesus, the apostle and high priest of our confession...** We have been made holy through Jesus Christ. He not only proclaimed the gospel as the original apostle sent from God the Father, but also mediated the gospel as a priest by offering himself as the sacrifice to purchase our redemption. So, we need to keep considering Jesus. Don't turn our eyes and focus towards Moses or anything else to find our confidence and hope in this world. We are not the focus of glory and neither is any other person in this world. But we are the house that God is building through us. We as the church are the focus of God's glory in this world. So, what is our role in being that house that Jesus Christ is building through us? We let God work on us, shape us, change us to be what he wants us to be. The bricks or the wood used to build a house don't tell the bricklayer or the carpenter how they want to be used in that building. They simply perform the task willingly they were created to do. That is our role in God's house. We are willing parts of the Body of Christ, who welcome God's work in and through us to accomplish his purpose for his glory. That was Moses's role, and that is our role, because **"we are his house..."** Let's pray.